

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	熊本市小学校英語教育研究会の実践の紹介
⑤英語力・指導力向上を目指した校内研修の在り方	熊本市小学校英語教育研究会 事務局 宮崎寛子

## 1 はじめに

熊本市小学校英語教育研究会は、発足して10年目を迎える。現在、会員数は75人である。3学期に行われる熊本市一斉の授業研究会を中心に月例学習会を行い、教員の指導力向上に向けて実践を重ねてきた。毎年どのような取組をしているのかを紹介する。

## 2 実践について

### (1) 総会・初夏の講座

年度初めに会員を募集し、総会では、一年間の見通しや年間計画等共有する。昨年度は、全国小英研での実践報告者である大分県佐伯市立上堅田小学校長 福田優子氏を講師として迎え、講演を主とする講座を開催した。

### (2) SD研修

夏季休業中、熊本市教育センターと本会共催のSD研修会を行う。研修の前半は、会員自ら講師となり模擬授業等を行い、参加者には、子ども役となり外国語の授業を体験してもらった。また、研修の後半では、「ICT(タブレット端末)を活用した模擬授業と演習」というテーマの下、参加者はグループワークを行い、ICT活用を生かした模擬授業を提案し合い、情報共有を行った。

### (3) 月例学習会

前述のSD研修で提示したデジタル教材の作成方法を知りたいという声に参加者からあがり、本会の月例学習会にて実技研修を行った。各自タブレット端末を持ち寄り、教材を取り込んだりトリミングしたりしながら、外国語の授業の子どもの「やり取り」で活用できるような教材を作成した。

また、本市では、教員の資質向上をめざして「授業研究会の日」が設定されている。小学校一斉開催の授業公開日に向けて、本会では市内各ブロックから4人の授業者を立ち上げ、研究授業を行う。

その際、事前の指導案検討会を何度も実施する。授業者の学びになるだけでなく、そこに参加した会員も模擬授業を行うなどして全会員で授業改善の工夫をする経験を積んだ。授業者は、できるだけ若い先生方をお願いし、この授業者を体験することで、飛躍的に指導力が向上する。また、事前研究会等での意見の出し合いや模擬授業等の体験により、参加者の指導力も向上する。

### (4) わくわく授業研究会

授業研究会には、会員だけでなく本市の外国語担当者等も多く参加する。新学習指導要領のねらいの理解と学びを重ねていく。

### ☆「くまもつと学びたいむ」の番組制作

コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休業の中、「外国語を学ぶ番組」を制作し、放映した。休校中、子どもが自ら学ぶような番組になるように考えた。「子どもが問いをもつ」シナリオを考えた。教育委員会と民放テレビ局、本研究会が連携して取り組むことができた。

## 年間活動計画

- 1 総会・講座 (6月)
- 2 SD研修 (夏季休業期間)
- 3 月例学習会  
(9・10・11・12月)  
内容：教材の作成  
模擬授業  
活動の紹介  
事前研究会
- 4 わくわく授業研究会  
(3学期)

☆テレビ番組制作



### 【指導助言・アドバイス】

小学校外国語教育に限らず、どの教科等でも、各地域において教育委員会の支援のもと、教員による自主的な教育研究団体の連携が各教科等の充実につながると、私は思っています。自身が、京都市立中学校英語科教員であったときも、京都市中学校教育研究会外国語部会の先輩や同年代の英語科教員から様々なことを学び、教育委員会と連携して様々な取り組みをしたことが、本研究会の実践から思い出されます。本研究会のように、行政ではなかなか行いにくい取組ができること、先生同士のネットワークが広がることなどが、研究会の魅力です。本実践報告からも、本研究会が、地元で全国小学校英語教育実践研究大会開催を視野に入れながらワンチームで取り組まれていることが伝わってきます。 (文部科学省 視学官 直山 木綿子)